

東アジア若手人文社会科学者ワークショップ

第1日 2016年2月3日(水) 09:30 開場 10:00 開会 18:00 閉会
 第2日 2016年2月4日(木) 08:30 開場 09:00 開会 12:00 閉会
 会場 京都大学稲盛財団記念館大会議室



同志社大学
Doshisha University
10:00~10:15

第1日 個別報告会 境界から観える東アジア

開会の辞 趣旨説明

第1部 移動する人と境界

10:15~11:45

戦前における「中間層」の日本人女性の「越境」と「境界」:高橋鏡子と尾崎孝子を例として 顔 杏如(台湾大学)
 郷土の境界:農村土地収用問題の比較から 蕭 仕豪(南京大学)
 地域住民が難民の「共振者」になるとき:難民の受け入れがもたらしたもの 瀬戸徐 映里奈(京都大学)
 評者 巫 靚(京都大学)、坂梨 健太(龍谷大学)、許 燕華(京都大学)

第2部 小さな中心から観る東アジア

13:00~14:30

漢代西北辺境の研究:居延漢簡と京都大学 野口 優(京都大学)
 家族の離散とつながり:中国雲南省におけるラフ女性の遠隔地婚出 堀江 未央(京都大学)
 孤独なパフォーマー:ナシ族トンパ文化継承の研究 和 川軍(南京大学)
 評者 楊 維公(京都大学)、柳 建坤(南京大学)、郭 まいか(京都大学)

第3部 思想・情報と境界

14:45~16:15

中国における日本道德教育研究の現状と展望 林子博(上海交通大学)
 東アジアにおける国家有機体説:明治期日本の国家観と北朝鮮の「社会政治的生命体」論との比較 姜 海日(京都大学)
 大規模災害における情報の境界線:阪神大震災・東日本大震災を事例に 矢内 真理子(同志社大学)
 評者 テン ヴェニアシ(京都大学)、江 俊億(台湾大学)、羅 太順(京都大学)

第4部 研究紹介と総合討論

16:30~17:45

研究紹介 第2日目の提起者・討論者5名
 総合討論

総評

17:45~18:00

第2日 討論会 学知と地域・国家・社会を考える

再開の辞

09:00~09:05

研究紹介

09:05~09:50

研究紹介 第1日目の評者9名

問題提起と討論者発言

10:00~11:00

提起者:中山 大将(京都大学)
 討論者:陳 威璿(台湾 中央研究院中国文哲研究所)、王 楠(南京大学)
 楊 菁華(南京大学:原稿のみ)、福谷 彬(京都大学)

全体討論

11:10~11:50

閉会の辞

11:50~12:00

主催・共催

主催:京都大学文学研究科
 共催:京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU)、京都大学人間・環境学研究科
 京都大学地域研究統合情報センター(CIAS)

趣旨ほか

- ・京都エラスムス計画を契機に2011年度から始まった本ワークショップは5度目の開催となりました。人文社会科学の若手研究者が地域、分野を越えて「自分の母語で考え、アジアの言語で分かち合うこと」を目標とし交流を続けてきました。
- ・使用言語は、日本語と中国語です。中国語報告には日本語訳のハンドアウトを用意し、コメントや質疑応答、討論時には日中通訳がつかます。中国語の能力のない方もぜひご参加ください。
- ・参加費、事前申し込みは不要ですが、事前連絡をいただくと日本語ハンドアウトを確実にご用意できます。
- ・お問い合わせ先: KNOWs 事務局 knowssince2011[-]hotmail.com *送信時には[-]を@に変えてください。
- ・会場は京大正門から徒歩で10分ほどかかります。最寄りの駅は京阪神宮丸太町、バス停は京都バス荒神橋となります。駐輪場は建物の南側にあります。地図はこちら(<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/access/>)からご確認ください。